

要 約

I 産卵生態

- ① 喜屋武岬沖での産卵場は、100 m線と50 m線の中央にある浮ノ曾根で3月下旬～4月上旬、50 m線の内側にある中ノ曾根で4～5月である。
中城湾では、湾内の水深30 m線から湾口部にかけての水深60 m線に囲まれた海域と推定される。また金武湾では、湾口部の50 m線の内側にあるメンゲイ礁附近で4～5月と推定される。
- ② 熟度調査から推定すると、産卵期は3月下旬～4月上旬に始まり、4月～5月を盛期として7月中旬頃まで続くものと思われる。
- ③ ハマフエフキの生物学的最小型は、雌46 cm、雄が48 cmと推定される。
- ④ 産卵場に於ける産卵期の海況は水温21.8℃～25.8℃、塩分34.53～34.87‰であった。

II 発育段階別分布生態

- ① 体長24 cm未満の幼魚は水深5 m以浅のサンゴ礁海域に主分布域を形成する。体長22 cm以上の成魚は水深15～20 mの砂質、サンゴ礁海域から水深35 mまでの海域に分布し、体長と水深の関係は正の相関を示す。親魚は冬期～春期にかけては水深30 m以深に主分布域を形成するが、夏期には水深20 m以浅海域に接岸し、成魚との混合域を形成する。
- ② 体長20 cm未満の幼魚は、成長に伴う移動及び季節的な移動はみられず、成育場にどまり、体長20 cm前後を境に離岸する。その時期は8月～9月と推定される。
- ③ 当才魚の成長は、8月下旬52 mm、10月中旬119 mm、12月上旬、144 mmであった。1才魚の成長は4月中旬、135 mm、6月中旬185 mm、7月中旬205 mmとなっている。

III 幼魚分布海域の環境

- ① 建干網で漁獲された混獲魚種は魚類32種、頭足類2種、カニ類1種であった。その内、最優占種はアイゴであり、次いでドロクイ、サヨリ、キス、ハマフエフキの順であった。これらの魚種は周年混獲される。その他、アオリイカ、シロクラベラ、甲イカ、クロダイ等がほぼ周年混獲されている。
- ② 幼魚生息域の植物相は、緑藻類17種、褐藻類8種、紅藻類4種、顕花植物3種の計32種が出現した。夏期にはセンナリズタ、冬期にはカゴメノリ、フクロノリが優占種となり藻場を形成する。
- ③ 幼魚の分布域に於ける底質は、サンゴ礁帯、大礫を含む砂質帯、砂泥帯、礫を含む砂質帯に大別できる。特に幼魚の分布量の多い海域は大礫を含む砂質帯である。

IV 発育段階別の食物環

- ① 当才魚の体長95～145 mmの範囲では餌料生物は魚類主体であり、体長による変化、季節的变化はみられない。
- ② 体長162～200 mmの1才魚は、当才魚同様に魚類主体であり、その他稚イカ、シャコ類が出現している。